

# From JPMA

## 革新的医薬品の創出に向けて

日本の製薬産業は、今までも健康面・経済面・科学技術面で日本社会に貢献してきました。その製薬産業は、現在、創薬環境において大変厳しい状況に直面しています。すなわち、予算の絶対額の不足および戦略的・重点的配分の欠如、米国並みに高い法人所得の実効税率・諸外国での法人税率引き下げと研究開発減税の拡充、研究開発環境の劣化といった状況にあります。このような状況を変えていくために、5月10日に開催いたしました医薬品・医療機器産業発展のための政策対話に続き今後も継続して、医療イノベーション推進室を中心とした「司令塔機能」強化、「創薬支援ネットワークによる実用化支援」・「ARO機能を併せ持つ臨床研究中核病院の整備」など医療イノベーション5か年戦略の推進、ライフサイエンス関連予算の一本化と増強、研究開発を促進する税制の維持・強化など製薬業界の要望として提言してまいります。



日本製薬工業協会  
会長 手代木 功

(10月5日 政策セミナーより)

### 日本製薬工業協会(製薬協)

#### Japan Pharmaceutical Manufacturers Association (JPMA)

製薬協は、病院、診療所などの医療機関で使われる医療用医薬品の研究・開発を通じて世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することをめざす、研究開発志向型の製薬会社が加盟する団体で、1968年に設立されました。

製薬協は、「患者参加型の医療の実現」に向けて、医薬品に対する理解を深めていただくための活動、ならびに製薬産業の健全な発展のための政策提言などをおこなっています。

製薬協は、国際製薬団体連合会(IFPMA)の加盟団体として世界の医療・医薬に関わる諸問題に対応し、各団体と連携を図りながら、グローバルな活動を展開しています。